

## 5号機 非常用ディーゼル発電機(C)の点検について(続報)

平成 17 年 6 月 22 日

発生号機	5号機 (定格熱出力一定運転中) :改良型沸騰水型、定格電気出力138万キロワット
発生年月日	平成17年6月20日(運転情報発生日)
発生時の状況	<p>運転中の5号機において、非常用ディーゼル発電機(C)(※1)の過速度停止装置(※2)の付属弁からの空気の漏えい量が、平成17年6月初旬から中旬にかけて微量ではあるが徐々に漏えい量が多くなる傾向であることを確認したため、付属弁を点検することとしました。</p> <p>点検は、あらかじめ「原子炉施設保安規定」に基づく措置(※3)をとった上で、非常用ディーゼル発電機(C)を待機除外(※4)にして、行います。(平成17年6月20日お知らせ済み)</p>
原因	<p>付属弁を点検した結果、弁体の表面(弁本体との接触面)に微細な傷があることを確認しました。</p> <p>このことから、今回の空気の漏えいは、弁体と弁本体の接触面に微細な異物が入り込み、接触面を傷つけたことによるものと推定しました。</p>
対策	<p>付属弁を取替え、空気の漏えいがないことを確認するとともに、非常用ディーゼル発電機(C)が正常に動くことを確認しました。</p> <p>その後、6月21日 午後5時40分に非常用ディーゼル発電機(C)を待機状態に復旧しました。</p> <p>なお、非常用ディーゼル発電機(A)(B)については、現場にて空気の漏えいがないことを確認しております。</p>
お知らせ基準	「表2-7(2)」に該当します。

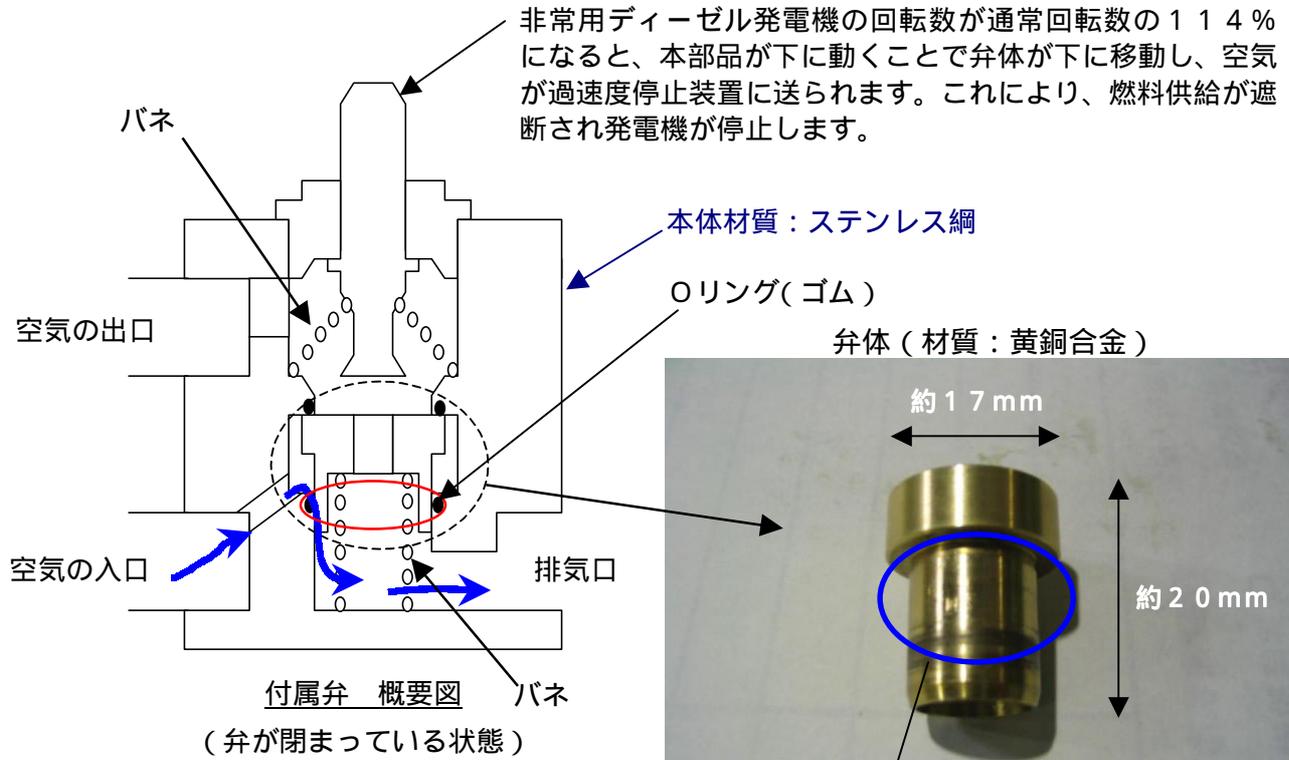
※1 非常用ディーゼル発電機は、外部からの電源供給が停止した場合等に自動的に起動し、主要な機器(非常用炉心冷却系ポンプ等)に電力を供給する非常用の発電機で、5号機では(A)、(B)、(C)の3台あります。なお、通常は停止しており、いつでも起動できるよう待機状態としています。

※2 過速度停止装置は、非常用ディーゼル発電機の回転数が運転中に何らかの原因で通常の回転数よりも上昇した場合(通常回転数の114%)に、発電機が損傷するのを防ぐため、燃料の供給を止めてディーゼル発電機を停止させる装置です。なお、通常は別の装置(通常用停止装置)で停止させます。これらの装置は、圧縮機で作った空気を用いて動作させます。

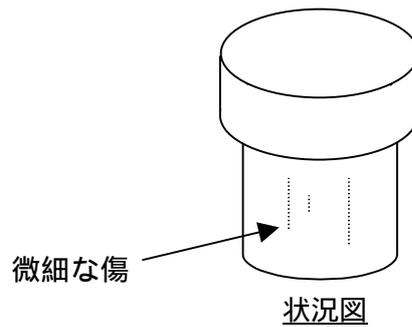
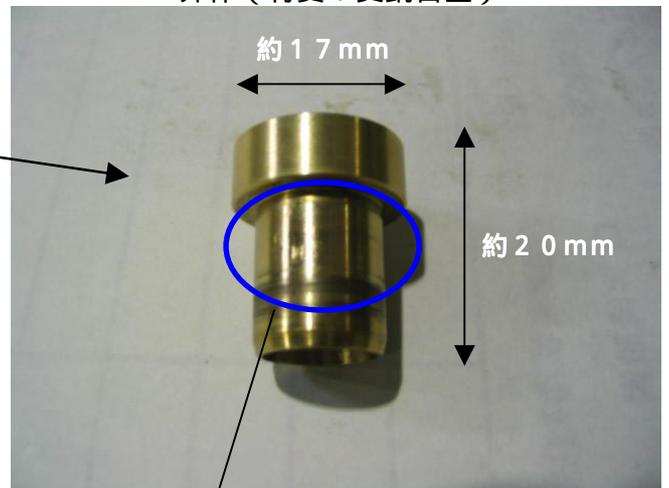
- ※3 原子炉施設保安規定に基づき、非常用ディーゼル発電機を点検等により一時的に待機除外とする場合には、他の2台の非常用ディーゼル発電機および原子炉隔離冷却系が動作可能であることを待機除外前に確認します。
- ※4 待機除外とは、通常、いつでも起動できる待機状態にある機器を、故障や点検のために自動起動できない状態にすることです。

以上

# 非常用ディーゼル発電機 (C) 過速度停止装置用付属弁の概略構造



→ 今回、空気が漏えいした経路 (推定)



# 5号機 非常用ディーゼル発電機(C) 系統概要図(停止装置用空気ライン)

